

# 社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合

〒160-0012 東京都新宿区南元町23番地  
公立共済四谷ビル TEL.03-5368-8175

## 新たなステージへの出発

独立行政法人国立女性教育会館理事長

神田 道子

男女共同参画社会の実現は、二十一世紀の最も重要な政策課題とされている。だが国際的には参画の水準を示すジェンダーエンパワメント指数では七五カ国中四二位と、低い位置にあり、推進に力を入れていく必要がある。

私が働いている国立女性教育会館は、男女共同参画政策を学習面から推進し、実施していく機関であり、国の第二次男女共同参画基本計画には会館のなすべきこととして四カ所に「国立女性教育会館」という固有名詞があげられ明記されている。

会館は昨年、開館三〇周年を迎え、十一月に多くの方々参加をえて記念式典を行ったが、この三〇年の間、特に平成十三年に独立行政法人になってから行政改革の波の中で平成十六年と平成十九年の二回にわたって単独の法人としての存続が危ぶまれる事態におかれた。だが、そのたびに

会館の単独存続を要望する動きがこつた。会館の設立に関わった議員や女性団体・グループ、会館の研修や交流事業に参加した女性たち、地域で活動しているリーダーなど、特に今回の統合問題では、その広がりが大きかった。男性議員、地域の女性たち、個人の女性等多くの人たちが統合反対の声をあげた。それは社会参画の一つの形であり、一人ひとりのもつ力が結束し、大きな力になっていくのを目のあたりにし、これがエンパワメントなのだ実感した。

昨年の暮れも押しつまつた十二月二十四日に会館は単独の法人として存続する事が閣議決定された。今、会館は次の新たなステージへと歩み出す時を迎えている。学習・教育面から男女共同参画を推進する国の唯一の機関として、国内的にも国際的にも核になる特徴ある仕事をしていくことは当然であるが、私が特に重

神田 道子（かんだ みちこ）

昭和10年 東京都生まれ

昭和32年 お茶の水女子大学文教育学部教育学科卒業

昭和41年 財団法人海上労働科学研究所研究員

昭和47年 東洋大学文学部専任講師

昭和57年 東洋大学文学部教授

平成5年 東洋大学学長

平成12年 東洋大学学長

平成16年 独立行政法人国立女性教育会館理事長

平成16年 独立行政法人国立女性教育会館理事長



視する必要があると考えているのは、日常的にゆたかな生活や人間関係を築いて生き方をつくっていくためにこそ男女共同参画の推進が必要だということ。多くの人に広く知ってもらうことであり、そうした学習、教育を創り広げていくことである。

多くの課題をかかえての新たなステージへの出発である。

## 第49回全国社会教育研究大会(香川大会)を終えて

香川大会は、「語ろう讃岐路で、新たな社会教育を！」の大会スローガンのもと、「新しい公共づくり」に貢献する社会教育委員の活動」を研究主題に、昨年十月二十四日から二十六日までの三日間、サンポートホール高松を主会場として、約千名の参加者をお迎えして開催いたしました。

文部科学省をはじめ、ご支援、ご協力いただきました皆様方に心から感謝申し上げます。

開会行事では、(社)全国社会教育委員連合大橋会長より、長年社会教育委員として活躍された六十三名の方々に表彰状と、三名の方々に感謝状が贈呈されました。

続いて、「今こそ求められる社会教育委員の主導力」と題して、政策研究大学院大学教授の岡本薫氏による基調講演がありました。講演では、社会教育委員は、地域のニーズ、地域の実情をくみ上げて、行政に意見を述べていくことを昭和二十年代から行っている。

あまたある学習活動のうち、限られた税金をどこに使うか。社会教育委員は、どの分野を重点的に活動していくか。それは自治体、地域ごとに決めなければいけない。

潜在的なニーズ、まだ気づいていない問題にも気づき住民に提案しなくてはいけない、という極めて重大な部分があるからこそ、社会教育委員や社会教育主事がいる。

独自の問題設定、目標設定、手段選択、それを住民に提案するなど、社会教育委員の仕事は、高度であるとともに、自由ではあるが実力勝負の世界である。

最後に、社会教育の基本は国が一律に決めている。当然ほかの行政分野では存在しない、学校教育委員はいないのに社会教育委員がいることの意味をもう一度考え直し、各地の発展のためにご尽力いただきました、と締めくくられました。

続くシンポジウムは、八戸短期大学学長補佐の内海隆氏をコーディネーターに、「新しい公共づくりに

貢献する社会教育委員の活動」のテーマのもと進められました。NP法人コミュニティ・サポーターセンター神戸理事長の中村順子氏からは、阪神・淡路大震災以後のコミュニティの再生の取り組み。岡山ユネスコ協会理事の池田満之氏からは、ESDや環境学習を通じた校区単位の地域づくり。香川大学教育学部教授の野崎武司氏からは、総合型スポーツクラブの普及・推進の活動の取り組みをもとに貴重な意見が出されました。

最終日は六会場に分かれ、分科会を開催しました。「社会教育委員の活動」「家庭教育支援のあり方」「高齢者の社会貢献」「安全・安心なまちづくり」「行政と民間の協働」の五つの分科会では、全国各地の取り組み事例をもとに、活発な意見交換を行いました。また「地域で進める青少年教育」の分科会は、ワークショップ(参加体験型)形式で行い、少人数グループに分かれて研究協議

することで、参加者間交流と学習

が一段と進み、会場が一体となった分科会となりました。

本大会は、分科会形式を変えるなど、参加者が一体となるような新しい試みにも取り組みました。皆様の熱意とご協力のお陰で、充実した大会にすることができました。深く感謝いたします。

次年度は、第五十回の記念大会が長野県で開催されます。香川大会の研究が一層深まり、すばらしい大会になりますことを願って、大会報告とさせていただきます。

香川県社会教育委員連絡協議会  
会長 清 國 祐 二





## 第50回（平成20年度） 全国社会教育研究大会〔長野大会〕のご案内

### ◇大会の概要

- 1 スローガン 過去・現在・未来をつなぎ、「智」「情」「意」が響き合う活力ある地域づくりを目指して
- 2 研修主題 住民の社会貢献活動及び地域再生と社会教育の役割
- 3 期 日 平成20年10月29日（水）～31日（金）
- 4 主 会 場 長野県県民文化会館（長野県長野市若里1-1-3）
- 5 大会日程

#### 【第1日】10月29日（水）

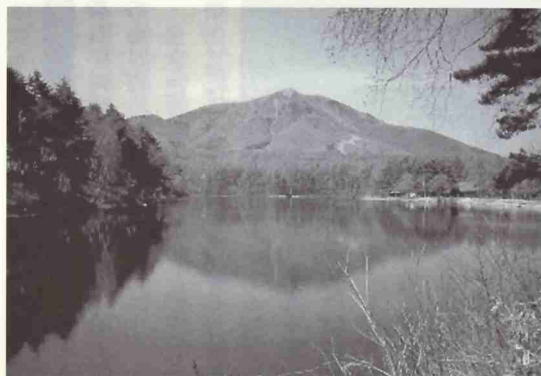
- |          |             |
|----------|-------------|
| ◎受付      | 12:00～12:50 |
| ◎アトラクション | 12:50～13:20 |
| ◎開会行事    | 13:20～14:20 |
| ◎基調報告    | 14:30～15:30 |
| ◎記念講演    | 15:30～16:50 |
| ☆社教連理事会  | 17:00～18:30 |

#### 【第2日】10月30日（木）

- |            |             |
|------------|-------------|
| ◎分科会（7分科会） | 10:00～15:00 |
| ☆社教連総会     | 15:20～16:50 |

#### 【第3日】10月31日（金）

- |         |                            |
|---------|----------------------------|
| ◎シンポジウム | 10:00～11:30                |
| ◎全体会閉会式 | 11:50～12:10 *閉会后、視察研修（希望者） |



一ノ倉池と飯縄山

### ◇大会の開催にあたって

本大会は、第39回関東甲信越静社会教育研究大会と併催になるとともに、第50回の記念大会となりますことから、この大きい節目に際し、戦後日本の文化国家、民主国家を形成するために多大の役割と期待が込められた社会教育実践が、この間どのような広がりや深まりがあったのか、その中で社会教育委員はどのような役割を担えたかを総括すると同時に、21世紀の国際化時代において新しい社会哲学、新しい社会システムが求められてきている中であって、新たな地平を切り開いていかねばならない社会教育のあるべき姿を追求することにより、本大会を社会教育のさらなる活性化に向けての転機とすべく、皆様方の御協力を仰ぎながら、よりよい大会にしたいと思っております。

開催予定地の長野市は、御存知のとおり「善光寺」の門前町として古くから知られております。かつて善光寺信仰は、宗派の枠を超えて全国の庶民に広まったといわれていますが、そのような社会の平穏と安泰を願ってやまない人々の「想い」は、今も昔と何ら変わりはありません。地域社会の人的つながりの希薄化が指摘されて久しい今こそ、我々は、過去・現在・未来をつなぎ、幅広い関係者の連携を進め、「智」「情」「意」がバランス良く響き合う、新たな「公共」の創造による地域再生を目指していかなければならないと考えております。

なにとぞ来たるべき大会には、全国各地から多くの皆様に御参加いただきますよう、お願い申し上げます。

長野県社会教育委員連絡協議会  
会長 小 出 勉

# 平成十九年度 地区別社会教育 研究大会

## 北海道地区

主体的に地域（まち）づくりに参加する社会の創造

北海道地区大会は、標題の研究主題のもとに、十月十一日・十二日の両日、星の降る里、芦別市に四百二十名が参加して開催されました。

初日のシンポジウムは、「参画と協働による地域（まち）づくりから学ぶ」というテーマで、地域（まち）づくりに貢献されている管内の三名の方が、それぞれの立場から意見を述べられました。フロアーからも質疑に加わって盛り上がり、社会教育委員の責務の重要性和活動を再認識しました。

分科会は前年度の六分科会構成を



全国初の入山規制の嶮山(きりぎしやま) 継続し、グループ討議方式を採って参加者全員に発言の機会を設けることで活発な研究協議が行われ

ました。

二日目は、「信じるに値する未来を作り出そう〜人間こそ本当に資産です〜」と題した、赤平市の榎植松電気専務取締役の植松努氏による講演を拝聴しました。植松氏は自力でロケット開発に挑戦され、小中学校に出向いて実習体験活動も行い、子どもたちの豊かな心や夢、希望が失われつつある今日の社会に大きな示唆を与えているばかりでなく、社会教育委員の活動にも道標を与え、参加者を魅了する講演の余韻を残したまま第四十七回大会は閉幕しました。

北海道社会教育委員連絡協議会

会長 関寺 恭朗

## 東北地区

新しい時代の要請に応える社会教育のあり方

東北地区大会は、「新しい時代の要請に応える社会教育のあり方」を研究主題に、六百七十名が参加し、十一月十五・十六日に岩手県花巻市において開催されました。

### 開会行事

今年度は、

広く社会教育関係者が一堂に会し、意見交換や情報の共有を通して、変化する時代に的確に対応する社会教育のあり方を探ることを目的に、東北地区公民館大会と初の合同開催となりました。

一日目は、開催地花巻の伝統芸能である「早池峰神楽」に始まり、開会行事に引き続き、記念講演として宮澤賢治イーハトーブ館館長原子朗氏が「隣人としての宮澤賢治」と題し、賢治の生き方や作品から浮かび上がる公と個人のあり方などについて、参加者に熱く語られました。

二日目の分科会では、5つのテーマ毎に日ごろの研究や実践事例の発表を基に、今後の社会教育に期待される、「人づくり・まちづくり」のあり方について活発な意見交換が行われました。

最後に、生涯学習社会の構築に向け、一層努力することを誓う宣言を採択し、大会を終了しました。

岩手県社会教育連絡協議会  
会長 松尾 弘一

## 関東甲信越静地区

地域に活力を生む社会教育活動のすすめ

関東甲信越静地区大会は、九月十三日・十四日の両日、静岡県熱海



開会式

市で九〇余名の参加を得て開催されました。

一日目は、茨城大学生涯学習教育研究センター准教授の長

谷川幸介氏による「生涯学習の新しい戦略と社会教育委員の役割」と題した基調講演の後、「町村合併後の社会教育委員のあり方」など6つのテーマのもと、司会者が助言者を兼ねるファシリテーター方式で各地の事例発表を基に分科会を開きました。

二日目の記念講演は、(財)日本科学技術振興財団会長・武蔵学園長(元文部大臣) 有馬朗人氏に「日本の教育の優れている点と問題点」と題してお話をいただきました。その後、「子どもたちの基本的な生活習慣の欠如」「家庭・地域の教育力の低下」「急速な少子・高齢化の進行」など様々な課題に地域で取り組むため、社会教育の一層の振興を図ることが大会アピールとして満場一致で採択され、本大会を終了いたしました。

静岡県社会教育委員連絡協議会

会長 井原 照夫



東海北陸地区

「生きがい・ふれあい・学びあい」で育む地域づくり・人づくり

前記のテーマのもと、九六一名の参加を得、東海北陸地区社会教育研究大会が、十月十八日、十九日の二日間にわたって開催されました。

一日目は、盲目のバイオリニスト安藤正太郎氏による演奏で幕を開けました。開会行事のあと、円空学舎理事長長谷川公茂氏による「円空の生涯」と題した講演が行われました。円空の写真を拝見しながら、円空の生き方について興味深いお話を伺うことができました。「慈悲の一番のことは優しい微笑みである」との言葉は、社会教育に携わる関係者にとって共感と示唆を与えるものでした。

二日目は、五つの会場で六つの分科会（家庭教育支援・高齢者対策・青少年健全育成・ボランティア活動・市町村合併



開会行事

とまちづくり・社会教育委員の役割と課題）を行いました。地元での活動事例や研究成果

等の情報提供を受け、活発な討議や熱心な意見交換が行われました。

話し合いの中から、これからの社会教育委員が果たす役割と課題について認識を深め、一層の努力を誓い合った有意義な大会となりました。

愛知県社会教育委員連絡協議会

会長 藤井 容江

近畿地区

新しい時代を切り拓く社会教育のあり方へ社会教育委員が果たす役割へ

近畿地区大会は、九月六日、七日の両日、和歌山県日高郡みなべ町の紀州南部ロイヤルホテルで、近畿各府県から八百五十名を超える参加者を得て、盛大に開催されました。

一日目は、みなべ町の炭琴コンサートと獅子舞の発表のあと、文部科学省生涯学習政策局社会教育課長平林正吉氏による「今後の社会教育の在り方について」と題した基調講演を行いました。



シンポジウム

和歌山大学生涯学習教育研究センター教授堀内秀雄氏がコーディネーターに、

近畿府県の社会教育委員三名をシンポジストにむかえ「社会教育委員活動の現状・課題と活性化の方策」地域・ひと・学びを紡ぐ、社会教育の可能性」をテーマとしたシンポジウムを行い、会場からも活発に意見が出されました。

二日目は、「地域づくり」「青少年教育」「人権教育」「環境教育」の四分科会を行い、活発な意見交換がなされました。

大会全体を通じて、社会教育委員や社会教育関係者が直面している課題への対応策や今後の在り方等について、議論を深めることができ、有意義な大会となりました。

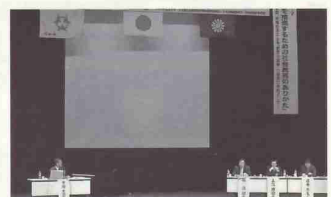
和歌山県社会教育委員連絡協議会

会長 榎本 浩巳

九州・沖縄地区

教育の協働（「協育」）をめざして 第三十七回九州ブロック社会教育研究大会は、「協育」を推進するための社会教育のあり方、学校、家庭、地域社会による「教育の協働」（「協育」）をめざして」を大会テーマに、平成十九年十一月十五日、十六日の両日、別府市のビーコンプラザを会場に、千人を超える参加者のもと盛大に開催されました。

一日目の分科会では、シンポジウム形式も採り入れ、①「公民館を中心とした『協育』の地域づくり」②「社会教育関係団体等の『協育』による地域づくり」③「『協育』を推進する社会教育委員の役割」④「つなげよう！学校、家庭、地域社会の『協育』ネットワーク」のテーマごとに、活発な研究協議がなされました。



シンポジウム

①「公民館を中心とした『協育』の地域づくり」②「社会教育関係団体等の『協育』による地域づくり」③「『協育』を推進する社会教育委員の役割」④「つなげよう！学校、家庭、地域社会の『協育』ネットワーク」のテーマごとに、活発な研究協議がなされました。

二日目は、「学校、家庭、地域社会の新しいつながりを求めて」「協育」ネットワークの構築」をテーマに記念シンポジウムを開催しました。

高崎経済大学の櫻井常矢准教授、島根県雲南市の土江博昭教育長、大分県教育委員で東国東地域デザイン会議の林浩昭会長に登壇していただき、地域全体で取り組む教育の協働に関する多くの提言等をいただきました。「協育」の重要性と社会教育のあり方について認識を新た

にすることができた有意義な大会となりました。

大分県社会教育委員連絡協議会  
会長 山崎 清男

# 地域の教育力の再生

## 〜平成20年度予算(案)から〜

### 文部科学省生涯学習政策局社会教育課

平成20年度予算(案)は、昨年12月20日に閣議決定されました。このうち、生涯学習政策局関係では、①家庭の教育力の向上、②地域の教育力の再生、③放課後子どもプランの推進等を主要事項に編成されており、ここでは、「②地域の教育力の再生」における「学校支援地域本部事業」「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業」について、紹介します。

【学校支援地域本部事業】  
20年度予算額 5,040百万円

近年の都市化、核家族化、共稼ぎ世帯の増加、地域における地縁的なつながりの希薄化等に伴い、家族や地域の絆が弱くなっているだけでなく、子どもたちの地域住民との交流による様々な経験も減少している。この結果、こうした経験からこ

で得ていた「社会性」や「信頼関係」を作り上げていくことが困難な子どもたちが増加してきている。

学校教育においては、教育活動以外の業務など教員の業務量の増加が問題となっており、教員の勤務負担を軽減し、時間外勤務の縮減を図るためには、教員のサポート体制の充実が必要であり、総合学習や部活動などの機会に地域の資源や地域住民の知識・技能を活用することが有効であると考えられる。

さらに、地域住民が公民館等の社会教育施設で行われている学級講座で学んだ学習の成果が、十分に評価されていないとともに、その学習の成果を生かす場・機会が必ずしもなく、学習意欲の低下にもつながっている。

これらを踏まえ、文部科学省では、教育委員会、PTA、地元企業等の支援団体の協力を得て、学校と

地域との連携体制の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを支援する「学校支援地域本部事業」を平成20年度から実施することとしている。

具体的には、地域住民の積極的な学校支援活動(例えば、学習支援活動、部活動指導、環境整備、登下校安全確保、学校・地域との合同行事の開催等)を通じて、学校支援ボランティアが教員を支援することにより教員の負担軽減が図られるだけでなく、学校支援ボランティアと児童

生徒との異世代交流を通して、地域の教育力が活性化すると考えている。

なお、本事業は3年間の委託事業とし、全ての市町村を対象に全国1,800箇所を実施することができると必要経費が政府予算案に盛り込まれたところであり、文部科学省から都道府県・政令指定都市に委託し、さらに、実施主体である市町村又は市町村実行委員会に再委託することとしている。



http://www.mext.go.jp/1/menu/houdou/19/09/070903/005.pdf



「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

20年度予算額 268百万円

近年、青少年の問題行動の深刻化や子どもたちに関わる重大事件が続発などする中、その原因が地域の教育力の低下にあると指摘されており、心豊かな子どもたちを育成するためには、地域の教育力の再生が緊急の課題となっている。

内閣府が行った「安全・安心に関する特別世論調査」(平成16年7月)では、「今の日本が安全・安心か」との問いに対し、約6割が「そう思わない」と回答し、その理由として「社会の連帯感が弱い」と回答した者が34.2%となっている。

また、人間関係に関しては、「人間関係が難しくなった」が63.9%を占め、その要因として、「人々のモラルの低下(55.6%)」、「地域のつながりの希薄化(54.3%)」、「人間関係をつくる力の低下(44.5%)」が挙げられており、地域の連帯感や人間関係が希薄化しているという結果が明確に表れている。

このため、地域住民が、ボランティア活動をはじめとする様々な活動や学習機会に参画し、住民同士

の交流が促進されることを通じ、「自らの地域は自らがつくる」という住民自身の地域に対する意識を高め、住民同士で主体的に地域課題等を解決する能力を向上させるとともに、地域社会に参画する態度の涵養を図り、地域のきずなで結ばれた安全で安心な地域社会の創造を推進する「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業」を平成20年度も引き続き実施する。

具体的には、都道府県等に行行政関係者、学校教育関係者、NPO等民間団体関係者など幅広い関係者で構成する運営協議会を設置(47協議会)し、域内における事業内容の検討、広報活動、事業実施後の検証等を行う。

また、安全・安心な地域づくり等に関するボランティア活動(例えば、防犯パトロールや地域の環境美化活動等)などの様々な活動や学習機会の提供、住民による主体的な地域課題等の解決に向けた地域全体での取り組みや、地域内の家族同士が様々な体験活動(例えば、農業体験や地域の歴史や伝統文化の体験等)を行い、交流するなどの事業を行う「地域活性化推進事業」を全国227か所で行っている。

なお、事業は文部科学省から都道府県等の運営協議会へ委託し、事業の実施主体である地域住民を中心とした市町村等の実行委員会に再委託することとしている。

**「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業**

- 住民のきずなによる安全で安心な地域づくり
- 現代的課題や地域課題の解決能力の向上

(前年度予算額 624百万円)  
20年度予算額 268百万円

**背景**

- **地域教育力の低下**  
社会の急激な変化に伴い、住民の地域社会への帰属意識の希薄化、住民同士の交流不足等により、地域教育力が低下し、青少年の問題行動の深刻化や青少年を巻き込んだ犯罪が多発。  
・地域教育力が低下していることを認識している人の割合：55.6%  
・低下している要因…個人主義が浸透しているため：54.1%  
(資料)「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年2月 文部科学省)
- **解決すべき現代的課題や地域課題が増加、複雑化**  
環境問題、子どもの体験不足、安全・安心なまちづくり、外国人居住者との共生など
- **改正「教育基本法」**  
公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。(第2条第3号)

**地域のきずなを深め、地域の再生を**

**事業の公表**

**地域のきずなを深める活動**

[小規模エリア:180か所×@497千円、大規模エリア:47か所×@2,213千円]

<p>主体的に地域社会の形成に参画し、地域の課題解決等に取り組み。</p> <p><b>(事業例)</b></p> <p><b>ボランティア活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域を支えるボランティア</li> <li>・住民のボランティア登録</li> <li>・町内会が援助希望者とボランティアをマッチング</li> <li>・地域行事を高校生が司会かき</li> <li>・毎日の声かけ、読み聞かせ</li> </ul> <p><b>公民館で活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちで解決! 地域の課題</li> <li>・住民アンケートで地域課題の抽出</li> <li>・解決すべき課題を特定</li> <li>・住民から解決策を募集</li> <li>・地域の事例を見学</li> <li>・実行計画作成一実行</li> </ul>	<p><b>環境美化学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>きれいな川のある地区づくり</b></li> <li>・環境学習(住宅から出る汚水の環境への影響)</li> <li>・川の現地調査(水質測定、生物調査)</li> <li>・環境学習(産物から石鹸作り)</li> <li>・川周辺の清掃活動</li> <li>・環境学習(水質改善の方策を考える)</li> </ul>	<p><b>高齢者から学ぶ町</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りおもちや干遊び</li> <li>・お年寄りから地域の昔を知る</li> <li>・地域観光に役立つマップづくり</li> <li>・生活習慣病予防講座</li> <li>・地域みんなで健康体操</li> </ul>
--	---	--

**地域のきずなを深める体験活動**

- **家族で農村まるごと体験**
  - ・サマライキ栽培の事前学習
  - ・畑の耕作、苗植え、草取り、肥料やり、収穫
  - ・畑や小川で昆虫採集
  - ・いろいろな野菜を観察しよう
  - ・農家から調りづくりを学ぶ
- **まちの歴史と伝統を体験**
  - ・まちの歴史を学習
  - ・史跡を訪ねてみよう
  - ・史跡マップづくり
  - ・伝統工芸品に挑戦

**安全・安心なまちづくり**

- 防災に関する学習活動
- ・防災講座(家庭での安全対策、地域の助け合い)
- ・地域避難訓練と救急講習会
- ・公民館での避難生活体験



http://www.mext.go.jp/b\_menu/houdou/19/09/070903/005.pdf

「社教連」だより

平成十九年度

第二回理事会、総会開催される

平成十九年度第二回「社教連」の理事会、総会が、去る十月二十四・二十五日に香川県高松市で開催されました。

総会では、①平成十九年度補正予算(案)②第五十回全国社会教育研究大会(長野大会)について③第五一回社会教育研究大会について審議され、いづれも原案どおり承認されました。第五一回大会は、九州地区の熊本県でお引き受けくださることとなりました。

その他の事項として、①全国社会教育退任者会 会則(案)について②一口二〇〇〇円の寄付金を募りたい(事業に助成するため)③他団体からの助成金をもらえるように動くことを承認いただき旨を提案し、今後内容については検討をしながらすすめることが承認されました。

五〇年史の編纂について

第五〇回全国社会教育研究大会の

記念行事として「五〇年史」の編纂について、準備をすすめている旨の説明がありました。お手元に戦後の社会教育や公民館の歴史の刊行物がありましたらお借りしたいので、ご連絡ください。

「社教情報」編集委員会開催

十一月二十一日(水)「社教情報」の編集委員会が四ツ谷のスクワール麹町にて開催されました。五八号の特集テーマは「地域の教育力Ⅱ―社会教育をささえる「ひと・もの・こと」です。発行は三月上旬を予定しております。

第五十回大会記念行事専門委員会開催

十一月二十一日(水)四ツ谷のスクワール麹町にて開催しました。大会スローガン・研究主題・記念講演講師・分科会の発表者・シンポジウムなどについて検討されました。

平成二十年度第一回理事会・総会について

平成二十年度第一回理事会・総会は、五月十三日(火)に表参道のホテルプロラシオン青山にて開催する予定です。

平成20年度 社会教育研究大会のお知らせ(予定)

第50回記念全国大会	(長野大会)	10月29日(水)～31日(金)	長野県民文化会館ほか
北海道地区	(留萌大会)	10月9日(木)～10日(金)	羽幌町中央公民館
東北地区	(秋田大会)	10月16日(木)～17日(金)	秋田市文化会館
東海北陸地区	(石川大会)	10月16日(木)～17日(金)	加賀市文化会館
近畿地区	(大阪大会)	9月4日(木)～5日(金)	大阪府立青少年会館ほか
中国四国地区	(鳥取大会)	10月9日(木)～10日(金)	鳥取県民会館
九州地区	(福岡大会)	11月13日(木)～14日(金)	アクロス福岡
政令指定都市	(仙台市)	5月29日(木)～30日(金)	仙台サンプラザ

社教情報No.58

3月上旬発行予定 [A5判64頁] 定価350円(本体333円)〒140円

特集・地域の教育力Ⅱ―社会教育をささえる「ひと・もの・こと」―

《巻頭言》 地域の教育力に想う 清國 祐二  
 《特集》 社会教育推進委員として「地域教育システム創造事業」に関わって 矢野 富子  
 持続可能な開発のための教育活動 池田 満之  
 まちづくり三法改正と市民の協働精神 内海 隆  
 社会教育に生涯尽力された人 佐々木 英雄  
 綾町の自治公民館 取材 上條 秀元  
 馬場祐次朗  
 韓国釜山を訪ねて 内田 和浩  
 地域の個性を生かす顔の見える社会教育を 齋藤健次郎  
 京都市社会教育委員 大八木淳史 聞き手 清國 祐二

編集・発行 (社)全国社会教育委員連合 TEL 03(5368)8175 FAX 03(3341)6071